

# 平成19年度 学校評価表

府中市立栗生小学校

## 1 経営理念

<b>学校教育目標</b> <b>「豊かな心で 自ら学ぶ子どもの育成」</b>		
<b>夢やあこがれをもち、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育成する。</b>		
<めざす学校像> ・夢や目標に挑戦できる学校 ・笑顔とあいさつがあふれている学校 ・地域から信頼される学校	<めざす子ども像> ・最後までやりぬく子 ・思いやりのある子 ・明るくいいきとした子	<めざす教職員像> ・児童にかかわりきる教職員 ・自ら指導力の向上に努める教職員 ・授業で勝負し、子どもを変える教職員

## 2 経営目標・評価項目・評価・達成状況

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策(評価指標)	評価	経営目標の達成状況
確かな学力	基礎学力の定着とことばの力の育成	基礎的学力の定着	プリント等による反復学習の徹底 (漢字・計算テスト正答率80%)	3	・朝ドリルや補充学習等に全校で取り組み、単元テスト平均漢字87.6点、計算90.2点になった。 ・できるまで根気強く指導することで、宿題忘れや忘れ物をする児童が10%未満になった。 ・家庭学習時間は、児童87%、保護者59%の肯定的評価であった。学習意欲を高める取り組みを工夫する。 ・児童の肯定的評価が話す70%、聞く78%であった。さらに発言の質を高める取り組みを進める。 ・詩や俳句作りに取り組み、1人2点以上応募できた。
		学習の構え(学習規律)の定着	学習の構えつくりの徹底 (宿題、学用品の忘れ物10%以下) 家庭学習の習慣化 (家庭学習時間、低30分・中60分・高90分)		
		話す・聞く力、書く力の育成	話す・聞く力、書く力を高める指導の徹底 (最後まではっきり話せる児童75%以上 ・話し手の目を見てしっかり聞ける児童80%以上 ・詩や作文、俳句等の作品応募一人2点以上)		
		読書活動の推進	朝読書・朗読活動の充実 (一人年間50冊以上・月1回の計画的な朗読朝会の実施100%)		
豊かな心	基本的な生活習慣の徹底と豊かな感性と実践力の育成	子どもの心をゆさぶる道徳授業の充実	研究授業による道徳授業の改善 (自分の生活や体験を語れる児童50%以上) (児童の肯定的評価4段階3.0以上80%)	3	・職員の肯定的評価は40%である。児童の体験や生活を引き出す発問等の指導を工夫する。 ・「道徳が楽しい」77%、「ためになる」89%であった。他教科領域との関連をさらに授業に生かす。 ・しつけ6原則の児童の肯定的評価は、90%以上、職員は、58%であった。掃除や廊下の歩行に課題があったが、改善できた。 ・朝読書は全学級で計画的に実施できた。年間50冊以上の目標は63%の児童が達成した。
		栗生小しつけ六原則の徹底	チャイム席・あいさつ・掃除指導・シャツ入れ・靴揃え・廊下の歩き方の徹底 (児童・教職員の肯定的評価90%以上)		
		読書活動の推進	朝読書・朗読活動の充実 (一人年間50冊以上・月1回の計画的な朗読朝会の実施100%)		
健やかな体	元気で頑張ることのできる体力と基礎的な運動能力の育成	基礎的な運動能力の育成	目標のある朝マラソンの実施 (低20km・中40km・高60km達成度90%以上) 学年に応じた体育指導の実施 (体力テスト各種目全国平均達成率90%以上)	2	・頑張りカード等の活用により、朝マラソンは76%の児童が達成した。 ・体力テストの達成率(全国比)は、44%だった。柔軟性を課題として年間を通して取り組んだ。 ・朝食98%、早寝68.5%、早起き86.5%であった。早寝が課題である。保健だより等を通して家庭への啓発をより積極的に行う。
		基礎的な生活習慣の定着	早寝・早起き・朝ご飯の励行 (朝食摂取・睡眠時間8時間以上の児童90%以上)		
		学校情報の積極的な発信	学校・学級便り、ホームページの充実・改善・更新 (月1回以上)		
信頼される学校	学校・家庭・地域が連携した組織的・協働的な教育活動と小中一貫教育の推進	地域の教育力を生かした教育活動の推進	ふれあい行事の内容を工夫・改善、外部人材等の活用 (各学級年間5回以上) 学校評議員会・外部評価委員会の充実 (年間3回以上)	3	・学校だより、学年だよりの発行、ホームページの更新は、月1回以上できた。内容も学年や行事のページを増やすなど、充実した。保護者の肯定的評価は94.5%であった。 ・地域等の人材活用は5回できた。学級独自でも道徳の時間等のゲストティーチャーとして活用した。 ・学校評議員会2回、外部評価委員会3回実施した。 ・中学校の行事等には一人3回以上できた。
		小中連携の充実	中学校の行事・授業等への積極的参加 (年間1回以上)		
		4: 目標値を上回って達成(100%超) 3: 目標値をほぼ達成(90%以上) 2: 目標値を少し達成できなかった(90%未満) 1: 目標値を達成できなかった(60%未満)			

## 3 改善の方向

・児童自身の自己肯定感や自己効力感を高め、自信をもって活動に取り組んだり、表現したりできる力を育てることが課題である。そのために、学校行事等の特別活動や朗読朝会、生活科・総合的な学習の発表会等の集会活動の場を充実させ、指導の質を高める。また、他教科や領域と道徳の時間との関連を図り、道徳的実践力の育成を進める。  
 ・基礎学力をさらに定着させるために、算数科や道徳の時間を中心として授業改善を進めるとともに、計画的・系統的なドリル学習等の充実を図る。  
 ・話す力、聞く力をつけるために、授業の中でしっかりと自分の考えを説明させたり、お互いの考えを比較したりする場面を位置づける。また、言語技術の研修を充実し指導に生かす。